



名古屋コーチンの肉用種を生産し、産地の中でも先頭に立って消費者の信頼確保と普及促進に取り組んでいる稲垣種鶏場の稲垣利正さんをご紹介します。地鶏ブランドとして知名度の高い名古屋コーチンを、確実な品質で提供している養鶏農家です。

就農時の養鶏業界の状況

利正さんは、種鶏場を営む父利幸さんの長男として生まれ、大学や就職先も養鶏に関係のある経歴を経て昭和 54 年に就農しました。しかし、就農を決めたときも、これからの養鶏業界がどうなっていくか不安だったといいます。昭和 50 年代半ばの当時、外国鶏プロイラーが急速に普及し、プロイラー生産農場はどんどん大型化していたそうです。稲垣種鶏場においても、白色レグホン専門孵化場から外国鶏プロイラーの孵化業に移行していましたが、当時の規模では養鶏農家として生き残れないだろうと感じていました。



稲垣種鶏場 稲垣利正さん

名古屋コーチンとの出会い

そのような時、経済連からの勧めもあり、名古屋コーチンの飼育に興味を持ちます。当時名古屋コーチンの生産は急激に減少しており、愛知県内でも飼育する農家は数戸という状況でしたが、その農家に行き、実際に試食してみて「これはうまい！これならやっていけるかもしれない。」と感じたといいます。大学の恩師や遺伝資源を保有していた県種鶏場に意見をもらいながら、名古屋コーチンへの経営転換を決めます。



名古屋コーチン
特徴は鉛色の脚

昭和 62 年には名古屋コーチンのみを生産し、雛の生産から精肉の販売までの一貫体系を確立し、平成 3 年に自宅に直売店も開きます。さらに、岐阜県内のプロイラー農家を委託契約肥育農場として加え、平成 20 年ごろの最盛期には年間販売量 7 万羽の規模にまで拡大しました。

新農場稼働開始

平成 25 年の夏に名古屋コーチン発祥の地である小牧市において、新農場が稼働を始めました。この新農場は、父利幸さんの理想が詰まった最新鋭の農場で、外部から



清潔な新農場

の悪性伝染病侵入のリスクを最小限に抑えた、衛生管理を徹底したシステムとなっています。また、健康状態に常に注意を図るためのウェブカメラ、密集事故防止のためのラジオ放送や LED 照明、気温管理のための電動カーテンや大型ファンなどが設置され、名古屋コーチンが健康に過ごせるように最大限配慮されていました。



オールアウト後、新しい鶏を迎え入れる準備のできた鶏舎

稲垣種鶏場では、雌鶏のみを扱い、肉の味が増す産卵開始期までじっくり育てるため、飼育期間は 140～160 日(一般的なプロイラーは 50～60 日)だそうです。この時期には多くの個体が産卵するため、新農場では、自動集卵ネストシステムを導入し、人が鶏舎内に入らなくても卵を集めることができるように設計しました。新農場は、雌鶏をじっくり育てるための理想的な環境が揃っています。

自分がおいしいと感じる鶏を、納得してくれる人に

現在は、農場の再編整備中のため孵化業務を休止し、雛を外部から導入する方式に変更しています。雛の数が十分確保できないため、出荷量が減少して需要に応じられない状況です。これまで出荷してきた料理店等から「やっぱり稲垣さんのコーチンじゃないとだめだ」といった声もあり、出荷先全てに一律カットで納品させてもらうよう頼み込んだといいます。稲垣種鶏場の名古屋コーチンは、飼料には動物性タンパク質を使わない、精肉を冷凍ではなくチルドで販売するなど、利正さんや父利幸さんがおいしいと感じる商品の実現のため、生産から流通まで徹底した管理をしています。その味を理解し、納得している顧客がついていたことに改めて感謝するとともに、そういう人たちにこそ買ってほしいと利正さんは話していました。



販売日の朝処理し、チルドで販売している

ブランドを守り、さらに先を見据えて

一般社団法人名古屋コーチン協会の役員会に出席している利正さんは、生産者のみならず販売店や料理店等と名古屋コーチンの普及に取り組んでいます。すでに全国区の知名度がある名古屋コーチンのブランドイメージを維持するとともに、全国に多数ある地鶏ブランドの中で生き残っていくためには、質と量の両方を追求しなければならない……。稲垣種鶏場においても、雛を外部から導入する方式に変更したことから、販売量は最盛期の 60～70%程度にとどまっています。今後、雛の生産を再開するのか、再開するとしたらいつからか、利正さんの悩みは尽きません。それでも、「出荷量が減ってもついてきてくれたお客さんにこれ以上迷惑をかけないように、できるだけおいしい名古屋コーチンを提供したい」と強い思いを語ってくれました。今後もおいしい名古屋コーチンを消費者に届け続けてくれると確信しています。



直売所の朝の様子

執筆：農業経営課
取材協力：尾張農林水産事務所農業改良普及課